

兵庫県健康福祉部こども局長挨拶

真木 高司

こんにちは。本日は甲南大学の人間科学研究所主催によります当シンポジウムが盛大に開催されますこと、心よりお祝い申し上げます。

さて、本格的な人口減少社会を迎えつつあるわが国でございますが、特に少子化対策の問題については、国の根幹に関わるような、最も重要かつ喫緊の課題ではないかと思えます。本県では平成一七年から子ども未来プランという形でさまざまな少子対策に取り組んできております。

平成一七年に合計特殊出生率は一・二五でしたが、平成二一年には一応一・三三ということで上昇気味ではありますが、昨年度は若干停滞気味の状況でございます。ただ、兵庫県としましては、やっと全国で三八位から三四位まで上がってきており、若干頑張っているなという状況でございます。しかし、今後五年間で考えますと、出生率の高い二〇代から三〇代の女性の人口が一割強減ってくる見通しでございます。二五歳から三四歳

までの男女の未婚率が急激に伸びておりまして、少子化現象というのとはなかなか歯止めがかからない状況でございます。さらに、皆さんご案内のとおり、世界の同時不況の問題、それから児童虐待の増加、また医師不足の問題等々さまざまな問題がございます。子育て家庭が子どもを育てる上での環境づくりはなかなか厳しい状況にあります。

このような状況の中で、本県では平成二三～二七年度の五年間で出生数を二四万人増やそうということで、新たなひょうご子ども未来プランを今年三月に策定したところでございます。新プランでは、誰もが安心して子どもを生み、育てられ、子どもたちがいきいきと成長していくことができるよう、地域団体、NPO、企業、職域団体、また大学、市町等との連携の中で、出産、育児から家庭と仕事の両立、また出会い、結婚支援まで少子化対策、子育て支援を総合的に推進していこうということで進めているところでございます。このプラン策定にあたりましては、甲南大学の前人間科学研究所長であられた森茂起先生に策定協議会会長として関わっていただきました。非常に多大なるご協力をいただいたところでございます。この場をお借りしまして厚く御礼申し上げます。

本日のシンポジウムでは、「父親の子育て母親の子育て」というテーマで、大日向先生をはじめとしました学識者の皆様のご講演、また討議が行なわれると伺っております。本県におき

ましても、甲南大学をはじめ県内の四二大学・短大と連携いたしまして、少子化対策、また子育て支援の推進に取り組んでおります。また、親自身の成長を含めた子育て力の向上や父親の育児参加を促す取り組み、仕事と子育ての両立に向けた企業への支援などを積極的に進めているほか、子どもたちの豊かな人間性、社会性を育むためのさまざまな交流体験活動の場づくりも積極的に取り組んでいるところでございます。

最後になりましたが、本日のシンポジウムの開催によりまして、多くの県民の方の理解が深まるとともに、良好な親子関係の構築や父親の育児参加の促進、またワーク・ライフ・バランスを考えた働き方ができる社会の実現につながることを祈念いたしました。挨拶とさせていただきます。ありがとうございます。